

2025年度“合宿型”新入社員研修に向けて

施設手配の状況から見た新入社員研修の傾向



株式会社ホスピタリティエージェント
マーケティング部
2024年5月 発行

1. はじめに・目次

日頃よりホスピタリティエージェントにご愛顧を賜りまして、誠にありがとうございます。
研修をご担当されている皆様におかれましては、新入社員研修が一段落し、ほっとされていることかと存じます。今年の新入社員研修はいかがでしたでしょうか？
弊社でも皆さまから頂いた情報や現地での体験をもとに振り返りと次年度に向けての対策をまとめております。
少しでも弊社の大切なお客様のお役に立てればと思い、本レポートを作成いたしました。
弊社内のデータですので偏りがあるかと思いますが、ご参考にしていただければと存じます。
引き続き、弊社へのご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

目次

1. はじめに・目次	----- P.2
2. 2024年“合宿型”新入社員研修の開催状況	
・手配件数／人数のコロナ前後比較	----- P.4
・平均人数	----- P.5
・一人一日当たりの費用平均	----- P.6
・平均日数、業種別傾向	----- P.7
・その他のトピックス	----- P.8
3. 2025年に向けて	
・予算について	----- P.10
・計画について	----- P.11
・計画の時期について	----- P.12

本資料で使用しているデータの抽出条件等

- ・弊社の営業システムに入力されたデータを集計しています。
- ・入力されたデータは弊社の営業戦略や体制などの要素により大きく影響を受けることがあります。あらかじめご承知おきください。

「“合宿型”新入社員研修」の抽出条件

- ・弊社手配案件で宿泊＋会場の手配がある案件
(会場と宿泊が別手配の場合は含まれておりません)
- ・件数、人数、日数などのデータは問い合わせ時のものであり、打ち合わせ等により実施の結果は異なる場合がございます。

2. 2024年“合宿型”新入社員研修の開催状況

2. 2024年“合宿型”新入社員研修の開催状況

手配件数／人数のコロナ前後比較

コロナ前(2019年) → コロナ後(2024年)



● 合宿研修(宿泊付研修)は増加傾向

2024年度の合宿(宿泊付)新入社員研修はお問い合わせ数、取扱数共にコロナ前の2019年度を大幅に上回りました。この傾向は、合宿型以外の新入社員研修も同様となっております。

● 推定される新入社員研修増加の要因

① コロナ禍で集合研修の価値が見直された

弊社のお客様でもコロナ禍では集合研修が開催できず、やむを得ずオンライン研修に切り替えた企業が数多くありました。しかしながら、こと新入社員研修に限って言えば、オンライン研修ではなかなか目的が達成されなかったという声が多く出ておりました。コロナ禍によって改めて集合研修の価値が見直され、コロナが収束した今、集合研修、なかでも合宿(宿泊)をして同期同士のコミュニケーションを深めることが重要視される傾向が出てきております。

② 景気動向による採用数の増加

景気の上昇による新卒採用数の増加や、人的資本経営といった研修に対する意欲の向上などが新入社員研修増加の原因としてあげられます。弊社のお客様でも採用人数の増加により、社内開催ができなくなり、外部施設を予約するといったケースも増えております。

③ 業種別採用数の変化

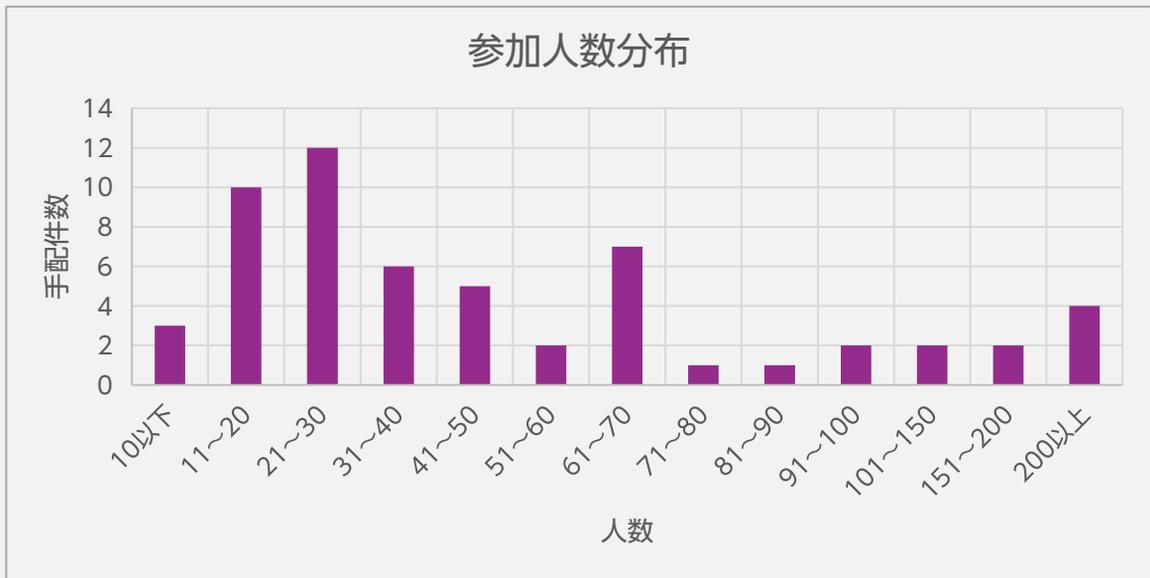
2024年度は新規のお客様からのお問い合わせが非常に多くありました。これまで研修を多く実施されていた業界だけでなく、IT系や運送系など景況感が良い業種からのお問い合わせが目立ってきております。また会社の規模においても、これまでと異なり多様化している傾向がみられました。

2. 2024年“合宿型”新入社員研修の開催状況

平均人数

63.6人

コロナ前(2019年)より+1.4人



※人数は問い合わせ段階でのオーダー人数

● 合宿型新入社員研修開催の平均人数はコロナ前と同水準

コロナ禍であった2021年、2022年は平均人数は減少したが、コロナが収束した2023年からコロナ前の水準に戻っており、2024年もその同レベルで推移している。
合宿型新入社員研修開催のボリュームゾーンは10名～30名となっている。

一部では大手企業がグループ全体の入社式からグループ全体での新入社員研修を再開するなど、開催規模の拡大傾向も見られた。

2. 2024年“合宿型”新入社員研修の開催状況

一人一日当たりの費用平均

11,859円

※宿泊費、会場費、飲食などを含む一人一日当たりの費用平均
※研修にかかった総費用を参加人数×日数で割った金額

● 一人一日あたりの費用平均はコロナ前より減少

コロナ後の景気環境に準じて、宿泊費や飲食費は確実に高騰傾向があるものの、一人一日あたりの平均費用はコロナ前、コロナ禍の水準を大きく下回った。

● 推定される平均費用減少の要因

① 宿泊が多人数部屋傾向に

2024年は宿泊の一人部屋傾向に変化が見られた。コロナ禍はもとより、コロナ後もプライバシーやジェンダーなどの関係で宿泊の一人部屋化傾向は進むとみられていたが、多人数部屋での手配が多かった。これは、施設の供給が少なく、一人部屋の確保が困難であったことや、予算の関係、また新入社員研修では、同期同士のコミュニケーションを重視するといったことが推察される。

② ローカルエリアでの合宿型研修の増加

合宿型研修の需要が増加したことや、ホテルなど受け入れ施設の供給不足などにより、近年と比較してローカルエリアでの手配が増えた。希望スペックや予算的にやむを得ずエリアを拡大した企業もあるが、中には自然豊かな環境、非日常を求めて遠方を希望されるお客様もいた。近年は研修開催場所の距離に関しての感覚もやや変化がみられるようになってきている。

2. 2024年“合宿型”新入社員研修の開催状況

平均日数

“合宿型”新入社員研修の平均開催日数

コロナ前(2019年) → コロナ後(2024年)

11.6日  9.7日

● 研修内容を見直し、合宿期間を短縮

昨年同様合宿研修の平均開催日数は短縮傾向にある。要因として、オンライン研修との併用による合宿期間短縮、施設の高騰による経費削減、即戦力化などが考えられる。また、特殊技術を長期で学ぶ必要がある製薬業や金融業が減少傾向にあることも影響しているとみられる。

業種別傾向

“合宿型”新入社員研修 手配件数



増加傾向: 建設業・運送業・製造業



減少傾向: 製薬業・人材サービス業

● 製薬業・人材サービス業など研修の多い業種に変化の兆し

弊社の営業戦略や獲得状況などの影響はあるものの、従来合宿研修を多く開催していた製薬業、人材サービス業、金融業などが減少傾向にあり、建設業、運送業、製造業などが増加傾向となった。製薬業や金融業は減少傾向はみられるが、手配件数は変わらず多く、採用人数も多い。建設業や運送業などは人材不足を補うための採用数増加や研修の増加傾向がみられる。

2. 2024年“合宿型”新入社員研修の開催状況

その他のトピックス

感染症対策の状況

新型コロナの5類への変更を受けて、ほぼすべての企業が対応をインフルエンザなどの感染症と同レベルに引き下げています。研修参加前の健康チェックや、感染症の疑いがある場合は欠席させるなどの予防は引き続き徹底しておりますが、研修中に発症者が出た場合は別室にて療養もしくは診療後帰宅させ、換気や接触者の体調をケアしながらも、研修自体はそのまま実施している企業がほとんどです。

マスクに関しても、ほぼすべての企業が個人の判断に任せるとしています。

食事会場などもコロナ前同様対面形式となり、懇親会も問題なく実施しております。

施設側も、入館時の検温やアルコール消毒液などの設置は継続しておりますが、従業員のマスク着用なども徐々に平常時に戻ってきています。

トコジラミの状況

一部報道で宿泊施設のトコジラミ被害が問題視されておりますが、弊社手配案件にて、トコジラミの被害発生を確認した案件はございません。施設側も清掃時のチェックなどを強化しており、報道ほどの影響は無い模様です。

研修に同行した弊社スタッフの感想

- ・久々に完全リアル復活となり、お客様も施設側も準備が追いついていない印象でした。
- ・コロナ前に戻ったなーと実感しました。
- ・新入社員の皆様の元気な笑顔を見ると、自分たちのモチベーションも上がりますね。
- ・今年の新入社員は、学生時代の多くをコロナ禍で過ごしており、ますます新人研修を合宿とする重要度が増したなと感じました。



3. 2025年に向けて

3. 2025年に向けて —“合宿型”新入社員研修をお考えのご担当者様へ—

予算について

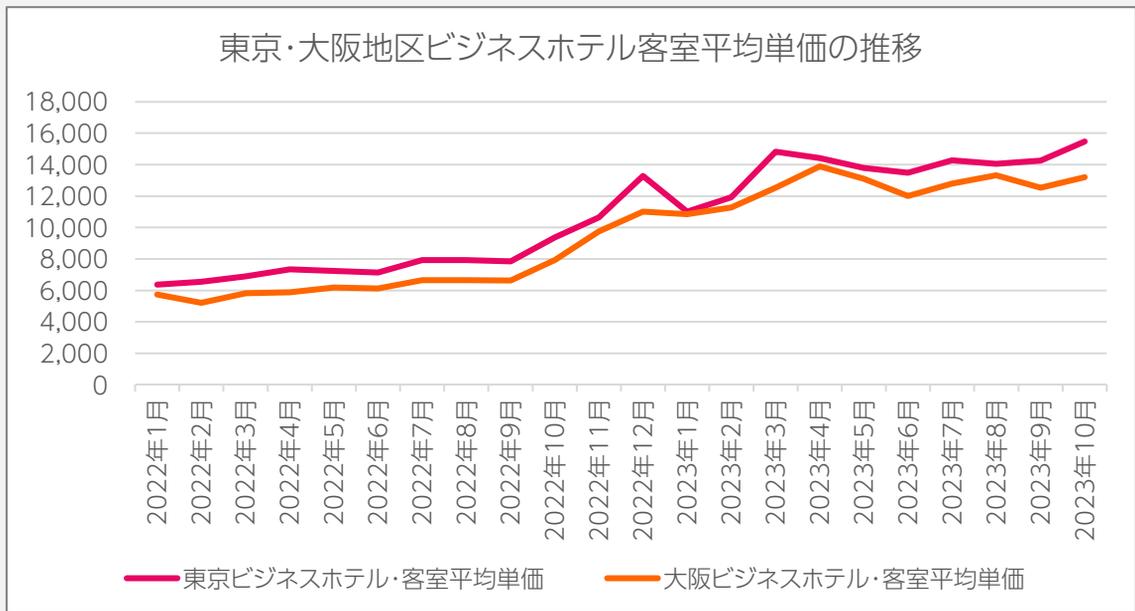
宿泊費用・飲食費用は最低でも1.2倍



既にご存じの通り、コロナの収束以降、観光需要の回復増加や人員不足、人件費、材料費などの物価上昇により、宿泊施設の料金は高騰が続いています。弊社グループの株式会社Aカードホテルシステムの資料によるとビジネスホテルの平均単価もすでに昨年の時点でコロナ禍の倍以上となっています。（※図①）

宿泊施設の価格高騰傾向は継続しており、2025年は更なる施設の値上げが見込まれます。施設により異なりますが、最低でも2割程度は今年よりも料金が上がる見込みです。研修予算を確保する際は、考慮されることをお勧めいたします。

※現時点での予測料金のため、今後変動の可能性があります。



出所：株式会社Aカードホテルシステム資料より

3. 2025年に向けて —“合宿型”新入社員研修をお考えのご担当者様へ—

計画について



プランB をご準備ください

仮にご希望の施設の予約ができなかった場合に備えて、プランBを事前に検討しておくことをお勧めいたします。

① 日程をずらす

当然ながら毎年4月1日を起点とした第1週目に新入社員研修が集中します。例えば先にオンラインなどで講義やスキル系の研修をする、職場見学をするなど工夫して集合研修の日程ををずらすと比較的良好な施設が予約できます。



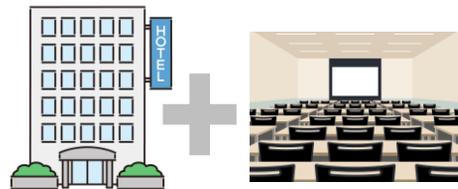
② エリアを変える

都内、関東圏などアクセスのよいエリアは人気があります。比較的長期間合宿をされる場合は多少遠方のエリアの施設を利用するなどすると、空きも多く料金的にもリーズナブルになる可能性があります。



③ ビジネスホテル+貸し会議室

宿泊と会場が一体となった施設は供給が多くありません。ビジネスホテル+貸し会議室といった分散型も検討をお願いします。ただし、ビジネスホテルの価格も値上げ傾向です。



3. 2025年に向けて —“合宿型”新入社員研修をお考えのご担当者様へ—

関西エリアで開催をお考えのご担当者様へ



万博の影響にご注意ください！

ご存じのように2025年4月13日(日)から、大阪夢洲にて万博が始まります。来場者だけでなく、スタッフや関係者の宿泊などで大阪近郊エリアは施設の予約が困難になり、料金も高騰する見込みです。特に関西エリアにて研修をお考えのご担当者様は、エリアや日程の変更などをご検討いただくことをお勧めいたします。

計画の時期について



今すぐ に動き出してください！

すでに多くの企業様からお問い合わせを頂いております。例年ですと新入社員研修のお問い合わせは夏ごろにかけて増加する傾向がございますが、少しでも良い条件で施設を確保するために直ぐに動くことが重要です。新入社員研修の具体的な内容は決まっていなくても、これまでの実施状況や次年度の採用計画などである程度施設の目安を立てることはできます、まずは迅速に動き出すことをお勧めいたします。

新入社員研修のお問い合わせ・ご相談は

ホスピタリティエージェント 各営業担当へ

新規のお客様はこちら

<https://www.hospitality-agent.co.jp/contact/>

本レポート・コンサルティングなどについてのお問い合わせはこちら

sales@hospitality-agent.co.jp

ホスピタリティエージェント マーケティング部